府立福泉高等学校
校長　吉村　宏美

令和７年度　学校経営計画及び学校評価

１　めざす学校像

「生徒に寄り添う学校」、「自他を認め合うことができる学校」、「希望の進路を実現できる学校」をめざす。
１．興味関心をもち、学ぶ意欲のある向上心溢れる生徒を育成する。
２．学びを通して幅広い視野をもった芯の強い生徒を育成する。
３．思いやりのある優しい心を持った生徒を育成する。
４．集団生活を通して、コミュニケーション力のある豊かな人間性を育成する。

２　中期的目標

１「学ぶ力」の育成
（１）「分かる」「できる」を実感することができる授業により、「基礎学力」の定着をめざす。
ア．少人数授業、習熟度別授業、オリジナル教材、ICT 等を活用し、学力向上と定着を意識した授業を行う。
イ．継続的な授業研究による系統的・効果的な教科指導の確立をめざす。
（２）「対話的な授業」を意識した授業展開を行い、生徒の学習意欲の向上をめざし、学習理解度を深める。
ア．授業の内容や方法等を振り返るため、教員が相互に授業を見学し、学校全体の「授業力」の改善と充実を図る。
※授業アンケート「興味・関心がもてた」、「知識・技能が身に付いた」3.3 以上を維持する。（R４:3.36、R５:3.48、R６:3.42）
※学校教育自己診断（生徒）「授業はわかりやすく工夫されている」: 肯定率 80%以上を維持する。(R４:78%、R５:75%、R６:82.2%)
イ.観点別評価を活かした授業を行うとともに、生徒にとって分かりやすい評価と規準を提示する。
２「未来を切り拓く力」の育成
（１） 教科・総合的な探究の時間・HR 活動を通じてキャリア教育の更なる充実を図る。
ア.上級学校や企業など外部と連携した進路学習の機会を継続し、生徒の進路意識の向上をめざす。
イ.将来を見通し、入学時より系統的なキャリア教育をつくりあげる。
（２） 各種進路指導全般を通じて、生徒の資質・能力を伸ばし、進路実現に向けた取組みを進める。
ア.面接指導、履歴書指導、小論文指導、進学講習など進路指導全般において学校全体で系統的な指導をめざす。
※進路決定率 100%をめざす (R４ : 81.6%、R５:89.7、R６:80.2)、就職一次斡旋合格率 85%以上を維持する。(R４:73.5%、R５:86.7%、R６:86.5%)
※学校教育自己診断（生徒）:「将来の進路について、学んだり考えたりする機会がある」85%以上を維持する。(R４:87%、R５:83%、R６:82.6%)
３「他者と協働できる力」の育成
（１）卒業後の自分を見据え、規範意識の醸成と自律的行動力の育成を図る。
ア.挨拶や言葉使いなど、「当たり前のことを当たり前にできる」社会人の育成をめざす。
（２）家庭や地域と連携して安全で安心な学校づくりを進めるとともに、生徒理解を深めながら生徒の自己有用感の向上をめざす。
ア.家庭との連携協力体制をつくり上げるため、丁寧できめ細かな情報共有を行う。
イ.学校生活に困難さがある生徒の早期発見と未然防止に努めるため教育相談体制を強化し、関係機関とも連携を図りながら適切な対応につなげる。
ウ.SC、SSW や関係機関との連携を深め、人権と多様性の尊重のために、教職員の専門的な知識の習得と対応力の向上を図る。
エ． 地域連携を密に行い、信頼される学校をめざす。
（３）基本的生活習慣の確立と快適な学校生活の確保
ア.規則正しい生活と心身ともに健やかな日常生活を送ることができるよう、自己を管理する能力を育む。
イ.生徒が快適な学校生活を送ることができるよう、生活指導事案に即応できる力と、未然防止対策を意識した体制をつくる。
※遅刻総数 10,000 件以下（R４:11,450、R５:10,030、R６:13,440）　※欠席総数 10,000 件以下（R４ : 13,461、R５:11,105、R６:11,405）
※学校教育自己診断（生徒）「学校の決まりやルールを守っている」90%以上（R４:91%、R５:95%、R６:92.2%）
「先生や学校は、いじめに、しっかり対応してくれる」90%以上（R４:86%、R５:84%、R６:84.5%）
「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」80%以上を維持（R４:77%、R５:77%、R６:83.1%）
（４） 自他を認め合うことができる集団づくりを進め、学校が居場所となる環境をつくる。
ア.他者を思いやる気持ちを育成するため、生徒に寄り添った相談体制のなかで丁寧な聞き取りや助言を心掛ける。
イ.生徒会活動、学校行事、学年行事、ボランティア活動を通じ、地域との交流活動等の充実に努める。
※学校教育自己診断（生徒）「学校へ行くのが楽しい」80%以上をめざす　（R４:76%、R５:78%、R６:69.9%）
「文化祭、体育祭、修学旅行は楽しく行えるよう工夫されている」85%以上を維持（R４:84%、R５:85%、R６:85.8%）
「校内はきれいな状態である」70%以上（R４:68%、R５:49%、R６:67.6%）
４「信頼される学校」・「協働する学校組織」をつくりあげる。
（１）中高連携を深めるとともに関係機関等との連携・情報共有を計画的に進めて、本校の魅力を発信する。
ア.在校時に「福泉高校に入学してよかった」と思える環境づくりと「入学させて良かった」と思ってもらえる信頼関係の構築をめざす。
イ.Web ページを活用した広報活動や地域の広報活動を充実させ、外部への情報発信に努める。
（２）ミドル層を核とした教職員の育成や業務の協働を促進し、教職員の資質向上をめざす。
ア.「生徒のために」を合言葉に、「何ができる」か「どんなことが必要か」を模索し、自ら行動できる教職員集団を育成する。
イ.計画的な OJT・OFF-JT に加えて、校務運営を継承し、発展させる教員の育成を図る。
※学校自己診断（教職員）「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」70%以上を維持（R４:64%、R５:73%、R６:73.2%）
「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」70%以上を維持（R４:67%、R５ : 65%、R６:82.9%）

府立福泉高等学校

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析［令和８年１月実施分］	学校運営協議会からの意見
R７学校教育自己診断の回答より　※年度（%）…（生徒回答） 「学校へ行くのが楽しい」 生徒回答：R５（78）R６（69.9）R７（65.6） (R７三者比較)生徒(65.6)　保護者(56.2) 教員(94.6) ※教員が客観的にみている肯定感は高い反面、生徒の肯定感が低いことが課題である。学校として問題意識をもち、抜本的な改革が必要である。 「授業はわかりやすく工夫されている」 生徒回答：R５（75）R６（82.2）R７（82.8） (R７三者比較)生徒(82.8)　保護者(46.2) 教員(100) ※教員の多様な生徒に対する指導力の成果が出た。また、ICT 機器をはじめとする先進的な授業も行われており、生徒の興味関心や理解力の向上につながっていると考えられる。こうした取組みを継続していくとともに、生徒にとって分かりやすい授業を提供していきたい。 「学習の評価は日頃の努力や取り組み等も含まれている」 生徒回答：R５（83）R６（85.8）R７（81.5） (R７三者比較)生徒(81.5)　保護者(87.9) 教員(100.0) ※観点別評価を活かした授業を行うよう校内研修を実施した結果が生徒や保護者にも徐々に伝わりつつあると実感する。 「将来の進路や生き方について、学んだり考えたりする機会がある」 生徒回答：R５（83）R６（82.6）R７（84.1） (R７三者比較)生徒(84.1) 保護者(85.8) 教員(94.4) ※１年生から段階を追っての進路指導が実現しつつある。進路行事も早い段階で実施しており進路実現に向けての意識は高まっている。今後は、３学年以外の保護者への啓発活動の強化が必要である。 「学校の決まりやルールを守っている」 生徒回答：R５(95)　R６（92.2）R７（92.3） (R７三者比較)生徒(92.3) 保護者(63.0) 教員(40.5) ※生徒と教員の差が大きいことが課題である。生徒が自覚することも大切であるが、教員側は生徒が納得してルールを守るよう、指導力と対応力を高める必要がある。そのためには信頼関係の積み上げが重要。 「命の大切さや社会のルールについて学習する機会がある」 生徒回答：R５（90）R６（86.8）R７（87.9） (R７三者比較)生徒(87.9) 保護者(78.8) 教員(94.5) ※「自分の命を大切に、人の命も大切に」を合言葉とし、あらゆる分野の人権教育を行っている。について行っている。伝えるべき内容が時代とともに多様化しており、闇バイトやスマホ依存等の学習も必要である。 「先生や学校は、いじめにしっかり対応してくれる」 生徒回答：R５（84）R６（84.5）R７（85.3） (R７三者比較)生徒(85.3) 保護者(78.4) 教員(94.4) ※生徒が安心して過ごすことができるように日頃からいじめ未然防止を心がけ、教員による見守りも増やして対応している。いじめの傾向を察知した際には迅速にいじめ対策委員会を開催し、情報共有や見守りを行うなど即時に対応ができている。 「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」 生徒回答：R５（77）R６（83.1）R７（85.9） (R７三者比較)生徒(85.9) 保護者(86.0) 教員(94.6) ※生徒からの相談にはていねいに対応できている。今後も情報共有を密に行い、生徒の見守りと生徒へ声掛けを継続することと、生徒の居場所づくりを心がける。また。関係機関との連携をこれまで以上に強化していく。 「 体育祭や文化祭は楽しい」 生徒回答：R５（85）R６（85.8）R７（84.1） (R７三者比較)生徒(84.1) 保護者(61.0) 教員(86.5) ※行事に関して、生徒の満足度は高いが今後在校生が減少するにつれて行事が縮小していくことが予測される。小さいながらも楽しいことや小規模だからこそできることなど生徒と教職員がアイディアを出し合い、魅力とやりがいのある行事になるよう支援していく。	第１回学校運営協議会　令和７年６月 12 日(木)　場所：本校校長室 （次第） １ 校長挨拶　２ 委員・事務局員自己紹介 ３ 会長及び副会長の選出（実施要項第９条） ４ 会長挨拶　５ 令和７年度学校経営計画について　６ 閉校に向けた新たな取組みについて　７ 今年度の取組み等について（首席・生活支援部生徒指導グループ・生活支援部生徒会グループ・進路指導部・事務室）　８ 各学年の近況等について　９ 令和８年度教科書採択について　10 その他 （ご意見） ・５分掌を３分掌に再編したのは合理的で納得できる。 ・生徒に思いやりを持って接するという、生徒指導から生徒支援への流れは非常に良いと思う。明確なビジョンが見える。 ・生徒を大人として、一人の人格として扱うことが大切。 ・今後は情報活用能力を高める教育が重要になってくる。生成 AI 等の活用にあたって課題もあり、慎重に進める必要もある。 ・情報が正しいかどうかを判断する姿勢も大切である。また、自ら SNS で個人情報を流出させ、ストーカー被害に遭うことも考えられるため、危険性についても学んで欲しい。 第２回学校運営協議会　令和７年 11 月６日(木)　場所：本校校長室 （次第） １ 校長挨拶　２ 会長挨拶　３ 令和７年度学校経営計画の進捗状況について ４ 今年度の取組み等について（首席・生活支援部生徒指導グループ・生活支援部生徒会グループ・進路指導部）　５ 各学年の近況等について　６ 閉校に向けた取組みの進捗状況　７ 令和８年度採択教科書について（閲覧）　８ その他 （ご意見） ・授業見学をさせてもらって、なかなか生徒の心をつかむのは難しいと思うが、興味関心を引く工夫が見られた。 ・謹慎中に課す課題についてはどのようなものを与えているか。 →生徒の実情に合わせた課題を個別に用意している。必要な生徒にはコグニティブ・トレーニング等をさせている。学力の向上や生活全般の質的向上につなげることが目的。このようなアプローチをする中で教員と話す時間が増えたことも良かった点。 第３回学校運営協議会　令和８年２月 18 日（水）　場所：本校校長室 （次第） １　校長挨拶　２　会長挨拶　３　今年度の学校評価、次年度の学校経営計画について　４　学校教育自己診断の結果について　５　今年度の取組み状況について　６　各学年からの報告　７　閉校に向けた取組み状況について（動画）　８　その他 （ご意見） ・生徒が「学ぶことは楽しい」と実感できるような教育環境の整備を今後さらに充実させて欲しい。 ・東百舌鳥高校で行われている、地域と学校が協働する取組み（例：書店との連携による POP 制作など）を、ぜひ参考として取り入れて欲しい。 ・学校教育自己診断における「生徒のルール遵守」において、生徒と教員の認識に大きな差が見られる点は改善が求められる課題である。 ・学校教育自己診断の保護者アンケートにおいて、「入学させてよかった」との評価が高かったことは学校が日々積み重ねてきた努力の成果である。

府立福泉高等学校

「校内はきれいな状態である」 生徒回答：R５（49）R６（67.6）R７（66.0） （R７三者比較)生徒(66.0) 保護者(62.4) 教員(71.0) ※近年、清掃指導を行っていないが、心の教育として必要であると感じる。 今後、校内体制を見直し、生徒が中心となった保健教育に努めたい。	

３　本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標[R６年度値]	自己評価
１　学ぶ力の育成	(１)「基礎学力」の定着	(１)「分かる」「できる」を実感できる授業を行うことで、「基礎学力」の定着をめざす。 ア.ユニバーサルデザインを意識したオリジナル教材の作成や ICT 機器の活用など、工夫した授業を提供する。	(１) ア・授業アンケート「興味・関心がもてた」、「知識・技能が身に付いた」3.3 以上を維持する。[3.42] ・学校教育自己診断（生徒）「授業はわかりやすく工夫されている」：肯定率 85%以上を維持する［82.2%］	(１) ア・学校教育自己診断（生徒）「授業はわかりやすく工夫されている」：肯定率 85%以上を維持する 82.8%（△）
		イ．校長による授業観察を年２回行う。授業評価票を活用した面談と振り返りを行い今後の授業に活かすことできるよう働きかける。	イ・校長による授業観察年２回を維持［２回］	イ・校長による授業観察年２回を維持［２回］（○）
	(２)学習意欲と学習理解度の向上	(２)「対話的な授業」を意識した授業展開を行うことで生徒に学習意欲を持たせる。 ア.教員同士で相互に授業を見学し、互いに学ぶ機会と共有する機会を設ける。また、他校の授業見学を行い、本校の指導に生かす。 イ.生徒にとって分かりやすい評価規準を提示するとともに評価の見える化を行う。	(２) ア・教員相互授業見学を年間２回実施する［１回］ ・他校への授業見学を年１回行う［２回］ イ・授業時の成果物や実技テストは評価シートに基づいて行い、全教員が明確な評価を行う。[3/35 人]	(２) ア・教員相互授業見学を年間２回実施する。［２回］（○） ・他校への授業見学を年１回行う。［１回］（○） イ・授業時の成果物に対して評価が明確になるよう全教員が工夫する。評価シートの作成 35 人中３人（△） 自分の授業に自信を持つ教員が増えた。また、教員相互授業見学週間を設けたことにより互いに学び合う機会となり教材研究への意識が高まった。今後も評価方法や生徒がさらに興味を持って取り組める授業の研究を行う。
２　未来を切り拓く力の育成	(１)系統的なキャリア教育	(１) 教科・総合的な探究の時間・HR 活動を通じてキャリア教育の更なる充実を図る。 ア.上級学校や企業など外部との連携を深め、生徒が進路について自ら考えられる学習の機会を増やし、進路意識の向上を図る。 イ.将来を見通し、入学時より系統的なキャリア教育をつくりあげる。	(１) アイ・学校教育自己診断（生徒)「将来の進路や生き方について、学んだり考えたりする機会がある」85%以上［82.6%］	(１) アイ・学校教育自己診断（生徒）「将来の進路や生き方について、学んだり考えたりする機会がある」85%以上を維持する。［84.1%］（△）
	(２)生徒の資質・能力の伸長と進路実現に向けた取組み	(２) 各種進路指導全般を通じて、生徒の資質・能力を伸ばし、進路実現に向けた取組みを進める。 ア.多様な進路に対応するため、放課後の時間等を活用し、就職指導・進学講習・キャリア支援行事等の取組みを進める。また、教育相談委員会等と連携を密にし、進路に不安を感じる生徒の個別指導を行う。	(２) ア・進路決定率 100%をめざす［80.2%］ ・就職一次斡旋合格率 85.0％以上を維持。［86.5%］	(２) ア・進路決定率 100%をめざす。［86.8%］（△） ・就職一次斡旋合格率 80%以上を維持。［94.1%］（◎）

				入学時から積み上げてきた進路学習の成果が表れている。一方で、進路を決定しないまま卒業する生徒もいるため、新たな進路指導の取り組みが必要である。加えて各学期に設けている個人面談をより丁寧に行うことで個別の対応を強化したい。また、校内で密な情報共有を行うことで、教員から声かけをする機会を増やすなど、生徒が進路について考えるきっかけを作る。さらに保護者への進路情報提供を「学習支援連絡網」で行うなど、情報発信の方法について検討する必要がある。生徒・保護者ともに進路意識を高めるための次なる取り組みをおこなっていきたい。
3 他者と協働できる力の育成	(1)規範意識の醸成と自律的行動力の育成	(1) 卒業後の自分を見据え、規範意識の醸成と自律的行動力の育成を図る。 ア. 生徒の実情に合わせ、生徒一人ひとりに寄り添いながら、挨拶や言葉づかいなど、社会人として必要なコミュニケーション力の定着をはかる。また、定期的に講習（交通安全講習会や薬物乱用防止講習会等）を行うことにより、生徒の規範意識の醸成につなげる。	(1) ア・学校教育自己診断（生徒)「学校の決まりやルールを守っている」90%以上［92.2%］ ・交通安全集会年２回維持［１回］	(1) ア・学校教育自己診断（生徒)「学校の決まりやルールを守っている」90%以上。［92.3%］（〇） ・交通安全集会年２回維持。［１回］（〇）
	(2)安全で安心な学校づくりを進める	(2) 家庭や地域と連携して安全で安心な学校づくりを進めるとともに、生徒理解を深めながら生徒の自己有用感の向上をめざす。 ア.教育相談委員会を中心として、SC・SSW 等との連携を進め、中退やいじめ等の防止、丁寧な対応に組織的に取り組む。同時に、合理的配慮や個別の教育支援計画等、配慮が必要な生徒への支援体制を整える。	(2) ア・学校教育自己診断(生徒)「先生や学校は、いじめに、しっかり対応してくれる」90%以上［84.5%］ ・学校教育自己診断(生徒)「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」80%以上を維持［83.1%］	(2) ア・学校教育自己診断（生徒）「先生や学校は、いじめに、しっかり対応してくれる」90%以上。[85.3%]（△） ・学校教育自己診断（生徒)「悩みや相談に応じてくれる先生がいる」80%以上を維持。[85.9%]（〇）
		イ.教員が一丸となって学校行事等の魅力作りに関わる。WEB ページを充実させ、生徒の頑張っている姿を発信する。	イ・HP「福泉だより」を年間 100 件以上更新［20 件］	イ・HP「福泉だより」を年間 100 件以上更新。[53 件]（△）
	(3) 基本的生活習慣の確立と快適な学校生活の確保	(3) 基本的生活習慣の確立と快適な学校生活を送ることができるよう、家庭との連携や生徒への声掛けを重点化する。 ア.遅刻および欠席について、家庭との連携を密にし、保護者の理解と協力の下、生徒への声掛け等、粘り強い指導支援を継続して行う。	(3) ア・遅刻総数前年度比 10%減の 9,500 件以下[13,440 件] ・欠席総数前年度比 10%減の 7,900 件以下[11,405 件]	(3) ア・遅刻総数前年度比 10%減の 9,500 件以下。[9,508 件]（△） ・欠席総数前年度比 10%減の 7,900 件以下［6,927 件］（〇）
		イ.生徒の問題行動を減少させるため、全教職員が生活指導事案に即応できる力を身に付け、未然防止対策を意識して行動できる体制を作り上げる。	イ.・懲戒件数前年度比 20%減の 95 件以下［127 件］	イ.・懲戒件数前年度比 20%減の 95 件以下。[84 件]（〇）
	(4)自他を認めあうことができる社会人の育成	(4) 自他を認め合うことができる集団づくりを進め、学校が居場所となる環境をつくる。 ア.傾聴の姿勢を大切にし、生徒に寄り添った聴き取りを行うことで学校内に「心の拠り所」となる環境を提供する。	(4) ア・学校教育自己診断（生徒)「学校へ行くのが楽しい」80%以上をめざす［69.9%］	(4) ア・学校教育自己診断（生徒)「学校へ行くのが楽しい」80%以上をめざす。[65.6%]（△）
		イ.全校集会・学年集会などの集団行動や学校行事全般、総合的な探究の時間を通じて、自分と他人の違いを理解してアサーテ	イ・学校教育自己診断(生徒)「文化祭、体育祭、修学旅行は楽しく行えるよう工夫さ	イ・学校教育自己診断（生徒)「文化祭、体育祭、修学旅行は楽しく行えるよう工夫されている」85%以上を維持。[84.1%]（△）

		ィブなコミュニケーションがとれる人材を育成する。	れている」85％以上を維持［85.8％］ ・全校集会を各学期に１回以上行う［０回］ ・各学年集会を月に１回以上行う［年３回］ ・学校教育自己診断(生徒)「命の大切さや社会のルールについて学び機会がある」90％以上［86.8％］	・全校集会を各学期に１回以上行う。［１回］(△) ・各学年集会を各学期に１回以上行う。［年３回］(○) ・学校教育自己診断（生徒)「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」90％を維持。［87.9％］(△) 充実した学校生活を送れていると実感している生徒が少ないことは残念であるが、学校行事への肯定度は高い。学校行事の充実をめざして新たな取り組みを考案したい。また、学習への意欲を高めるため、学ぶことの楽しさを伝える手法や技法を教員が模索していく必要がある。今後も、集団で学ぶ機会を多く設け、コミュニケーション力があり、自他を認め合うことができる社会人の育成を引き続き行っていきたい。
４「信頼される学校」・「協働する学校組織」をつくりあげる	(１)関係機関と連携を深め、本校の魅力を発信する	（１） 中高連携を深めるとともに関係機関等との連携・情報共有を計画的に進めて、本校の魅力を発信する。	（１）	（１）
		ア.入学した生徒を進級・卒業に導き、進路実現できるよう最大限の教育支援を行う。また、生徒の経済・教育的背景を理解し、多様な生徒に対応できる校内体制をめざす。	ア・中退者を 10％減少させる［65 人］	ア・中退者を 10％減少させる。［58 人］(○)
		イ.中高連絡会を実施し､生徒が成長した姿を中学の先生方に見ていただくことで信頼関係を構築する。また、Web ページによる本校の魅力発信を継続して行う。	イ・中高連絡会を年１回開催する［１回］ ・HP 閲覧数年間 15,000 件をめざす［17,000 件］	イ・中高連絡会を年１回開催する。［０回］(△) ・HP 閲覧数年間 15,000 件をめざす。［16,200 件］(◎)
	(２)教職員の資質向上をめざす	（２） ミドル層を核とした教職員の育成や業務の協働を促進し、教職員の資質向上をめざす。	（２）	（２）
		ア.「生徒を伸ばすこと」を意識した関り方や褒めるコツを理解した関わり方を積極的に行うことで生徒が自己肯定感を持ち、さらにやる気と向上心を持たせる。また、教育相談的感覚を持ち合わせて生徒対応できる教員力を育むための研修を行う。	ア・人材育成につながる校内研修を年３回行う［２回］	ア・人材育成につながる校内研修を年３回行う。［２回］(△)
		イ.授業づくりのための研修や専門分野の研修を行うことで指導力の向上をめざす。また、生活指導力や進路指導力を磨くため、経験年数の少ない教員へも学校運営への積極的な寄与を求める。さらに「企画運営委委員会」や「将来構想委員会」を中心とした機動力のある組織づくりと校務の整理を意識する。その上で、教職員の時間外勤務への対応も行う。	イ・学校自己診断（教員）「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」70%以上を維持［73.2％］ ・学校自己診断（教員）「教職員間の相互理解がなされ､信頼関係に基づいて教育活動が行われている」80％以上をめざす［82.9％］ ・将来構想委員会を定例的に年 10 回行う。［７回］ ・時間外在校等時間月 80 時間以上をなくす。［４人］	イ・学校自己診断（教員）「校内研修は教育実践に役立つような内容となっている」70%以上を維持。［86.5％］(◎) ・学校自己診断（教員）「教職員間の相互理解がなされ、信頼関係に基づいて教育活動が行われている」80％以上をめざす。［89.4％］(◎) ・将来構想委員会（閉校準備員会に名称変更)、を定例的に年 10 回行う。［４回］(△) ・時間外勤務月 80 時間以上をなくす。［２人］(○) 生徒の経済・教育的背景を理解し、多様な生徒に対応できる校内体制をめざす。そのためには教職員の生徒理解力を深めることが必要である。今年度は大阪府教育センターのパッケージ研修を活用し、観点別学習状況評価についてそれぞれの授業について、グループで考察するなど実践的な研修を行った。今後も先進的な授業づくりと授業評価を行うことで、生徒が興味関心を持って取り組むことができる学習環境を維持したい。